

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2014年03月04日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2012000067"/> 整理番号 <input type="text" value="11739"/> 担当者 <input type="text" value="松岡 義人"/>
表 題	<input type="text" value="前立腺癌に対し、抗腫瘍作用を有するPIポリアミド"/>
技術分野	<input type="text" value="化学・薬品"/> <input type="text" value="食品・バイオ"/> <input type="text" value=""/> <input type="text" value="ライフサイエンス"/>
適用製品	<input type="text" value="医薬品"/>
目 的	<input type="text" value="前立腺癌はアンドロゲンおよびアンドロゲンレセプター (AR)によりその進行・増殖がコントロールされている。近年、治療抵抗性前立腺癌細胞が依然としてARを発現し、アンドロゲン応答遺伝子の発現が亢進していることが報告されている。本発明において、前立腺癌の治療に有効であり、かつ、安定で安全な物質を得るためにPIポリアミドに着目し、開発を行った。"/>
技術概要	<input type="text" value="近年、治療抵抗性前立腺癌細胞において、アンドロゲン応答遺伝子の発現亢進が認められていることが報告された。そこで、アンドロゲン応答遺伝子に対し干渉性RNA等を投与して、発現を抑制する治療方法が開示されているが、同物質は生体内で安定性が低い。これに対しPIポリアミドはその生体内での安定性、組織、細胞への移行性において優位性が高く、期待される新技術である。本発明者らは、長鎖脂肪酸の代謝に関係するアンドロゲン応答遺伝子ACSL3が、前立腺癌の悪性化に関わる遺伝子であることを発見し、また転写協調因子Oct1が、ARとともに転写を促進させていることを見出した。本発明において、このPIポリアミドを前述のOct1結合配列に特異的に結合するよう設計し、ACSL3遺伝子の発現を抑制することを確認した。さらに本PIポリアミドが前立腺癌細胞増殖および細胞遊走能を抑制させ、治療に有用であることを見出した。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>
会社名	<input type="text"/>
所 属	役職 <input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/> FAX番号 <input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>
連絡事項	<input type="text"/>



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター(NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL:03-5275-8139 FAX:03-5275-8328 E-mail:nubic@nihon-u.ac.jp